

# カルメル 霊性センターニュース



宇治カルメル会修道院

2018年3月

340号



## 目次

目次	1
心の泉	3
カルメル会の企画案内	2 1
東京	2 2
京都	2 8
名古屋	3 2
北陸	3 3
諸所の企画案内	3 5
郵送お申込みのご案内	4 6
編集後記	4 7



ヤヌア・チェリ（宇治修道院）

# 心の泉



宇治カルメル修道院 中庭



## 第三卷

### 第九章 すべては究極目的である神に向かう

#### 3 愛はすべてに勝つ

それは、空しい虚栄心を遠ざける真理である。あなたの心に、天の恵みとまことの愛徳とが入るなら、ねたみや狭量<sup>きょうりょう</sup>や自愛心の余地はない。実に、神への愛はすべてに勝ち、あなたの心の力を強くする。あなたに知恵があるなら、私においてだけ喜び、私だけにより頼むだろう。「神ひとりのほかによい者はない」(ルカ 18・19)からである。神は、すべてにおいて賛美され、祝されるべき方である。》

### 第十章 この世を捨てた者にとって、神に奉仕することは喜び

#### 1 子

《主よ、私はまた語ります、黙っていることができないからです。私は、天におられる私の神、私の王の耳にこう言います。「ああ、主よ、あなたをおそれる人々のために、備えられた喜びは、なんと偉大なものでしょう！」(詩篇 31・20)と。しかし、あなたを愛し、心を込めて、あなたに仕える者にとって、あなたはどのようなお方でしょうか？あなたを愛する者にくださる霊的な観想の喜びは、言い尽くしがたいほどのものです。あなたの愛の優しさを、特にこうしてあなたは私にあらわされました。あなたは、私が存在する前に私を知っていました。あなたから離されて迷っていた時に、私を再び引き戻して仕えさせ、あなたを愛せよとお命じになったのです。

#### 2 あなたは私を愛した

ああ、絶えることのない愛の泉よ、私はあなたについて何と云えばいいのでしょうか！罪に汚されて迷っていた時、私を顧みてくださったあなたを、どうして忘れましょう？あなたがお示しになった慈悲は、しもべの期待をはるかにまさるものであり、あなたが与えてくださった恵みと友情とは、しもべのすべての功德にまさるのです。



18-3月 　　いつくしみの愛への信頼

## キリストのまなざし

灰の水曜日にはじまった四旬節イエスとともにエルサレムへ向かおうと固い決心をし、その思いを新たにしながらもよろめきながらイエスの後についてゆく日々・・・キリストのいつくしみのまなざしに信頼するペトロを思い出します。

「シモン、シモン、サタンは、あなたがたを小麦粉のようにふるいにかけることを願った。しかし、あなたの信仰がなくならないよう、わたしはあなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったとき、兄弟たちを力づけなさい」。

ルカ 22・31

シモン（ペトロ）が、「主よ、わたしはあなたとともに牢獄に入り、死ぬ覚悟があります」と言うといエスは、仰せになった。「あなたは三度わたしを知らないと言うであろう」。ルカ 22・33

主は振り向いて、ペトロを見つめられた。ペトロは「今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度私を知らないというであろう」という主の言葉を思い出し、外に出て激しく鳴いた。ルカ 22・61

ペトロの弱さを前もって支えて祈られたイエス、それはトテロが自分の弱さを心底知った時兄弟たちを同じように受け入れるためでした。イエスを真実に愛し自分の忠誠を堅く信じていたペトロ。自分の弱さのどん底でイエスのいつくしみのまなざしに出会い涙に潤むペトロ・・・



伊従 信子 (いより のぶこ)  
ノートル・ダム・ド・ヴィ

## 創造主への賛美（7）

くのり  
九里 彰

前回は、旧約のダニエル書の賛歌をご紹介したが、この賛歌に類似した賛歌が、アシジの貧者、聖フランシスコ（1182頃～1226）の「太陽の歌」である。死の二年前に当時の俗語で書かれたテキストは、現在、現代イタリア語になおされて、全世界に普及している（なお、イタリア語では「被造物の賛歌(Cantico delle creature)」とか「兄弟太陽の賛歌(Cantico di Frate Sole)」と呼ばれている）。

10連からなるこの賛歌の第一連は、こうである（以下は私訳）。

いと高き、全能の、良き主よ  
賛美と栄光と誉れと、あらゆる祝福は あなたのもの  
これらはみな いと高き あなたにのみ ふさわしいもの  
いかなる人も あなたにふさわしい者には あらず

ここでは、神はすべてのものとの比較を絶した創造主であることが強調されている。つまり、創造の最後（第一の創造神話《創 1・1～2・4a》では、第六日。第七日は安息日）にご自分の似姿としてあらゆる被造物の頂点に創造された人間も、神と比べるならば単なる被造物、もろくはかない土の器にすぎないことが言われているのである。

こうして人間には掴み切れない、想像を絶したこの偉大なる神を賛美せよ、と第二連以下が続くのである。

おお 讃えられよ わが主よ  
すべての被造物によって  
わけても 兄弟なる太陽によって  
太陽は 昼をもたらし 私たちを照らす  
彼は 美しく、大いなる輝きをもって 光を放ち  
いと高き あなたの 偉大さを 指し示す

おお 讃えられよ わが主よ  
姉妹なる月と星とによって  
あなた それらを 天に ちりばめ  
清らかに 美しく 気高く 造られた

（続く）



## 十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (122)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### 「十字架の聖ヨハネとエコロジー」(1)

もう二十年前のことですが、技術史の専門家であるアメリカ人のL・ホワイト Jr. は、エコロジカルな問題の根は、きわめて宗教的なものであり、それゆえにその対策も本質的に宗教的でなければならないだろうと主張しました。皆がエコロジー推進者のための守護聖人を探している時、彼は、きっぱりと表明しました。”I propose Francis as a patron saint for ecologist” (私は、エコロジストの天上の保護者としてフランシスコを提案します。)と。ホワイトがそう願ったのは、彼によれば、聖フランシスコが、「神のすべての被造物のための民主主義を導入するために」、自然に対する人間の絶対君主制を打ち破ろうとしてきたからだということでした。(訳者注：ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス神父のこの本『十字架の聖ヨハネのこぼれ話』は1990年に出版されています。)

このまとまりのない簡単な論評で、エコロジーの守護聖人にまた別の可能な候補者として十字架の聖ヨハネを擁護するつもりはまったくありません。というのも守護聖人の称号は、ヨハネパウロ二世によって、1979年11月29日、はっきりとアシジの聖者に与えられたからです。その称号がふさわしい理由として、教皇はこうおっしゃいました。「被造物を神からはかり知れない恵みとして認識していた多くの聖人や優れた人々の中で、アシジの聖フランシスコは際立っています。というのも、彼はすべての被造物が神の手から出てきたものであるとの特別な感覚を持っていましたから。天上の光に照らされて、彼は《被造物の賛歌》を創り出しました。その中で、彼は、兄弟なる太陽や姉妹なる月や姉妹なる星々によって神を賛美し、神に栄誉と栄光と祝福を捧げました」。 (続く)



## 四旬節 第三主日 (B) (ヨハネ2:13-25)

## あなたの家を思う熱意がわたしを食い尽くす

使徒たちはイエスが神殿で商売をしている者たちを追い払われるのを見たとき、詩篇 69 の言葉を思い出しました。“あなたの家を思う熱意がわたしを食い尽くす” (詩篇 69:10) 神の家に対する熱烈な思いに駆り立てられたイエスは、詩篇の言葉にあるようにご自分の為すべきことをなさいました。イエスご自身の家である神殿を取り戻すために神殿を商いの場に行っている者たちを立ち退かせたのです。こうしてわたしたちの信仰も全ての利己的、実利的な思いから解放され、純粹に神に向けられたものであるべきことを教えて下さいました。キリストとの友情を深めるために先ずわたしたち自身が清めていただかなければなりません。

イエスが神殿で行われたこのことは、わたしたちの内面の浄化の道を示しています: 過ぎ越の神秘です。“この神殿を壊してみよ。三日で建て直して見せる。” イエスはご自分の十字架上の死と復活を暗示して仰いました。イエスは心の浄化の必要を強調なさるためにその鍵となる大切なお手本を示して下さいました: 真のいのちを得るためには、自分に死ななければなりません。わたしたちの内面、心と魂を支配しがちな様々のこの世の実利的な関心を投げ捨てましょう。心を清め、潜心したとき、初めて聖霊の声を聴くことができるのです。

イエスは人間の持っている弱い傾きをよくご存知でした。人間が共通に持っているマイナス面を打ち砕くことの困難さもよく知っておられました。この状態で霊的に上昇することは大変なことです。イエスも地上でわたしたちと同じ葛藤や誘惑を経験なさいました。このときの確固たる倒れることのないお姿を見るとき、わたしたちはどう生きるべきか、どうすべきかを学ぶことができます。イエスは生涯をかけて神への愛に生きることを教えてくださいました。日常生活で、先ず神を選ぶことです。平凡な日常の小さなことを愛の心を持ってすることです。勇気を持ってイエスと共に! 職場でも、家庭でも、夫々の生活において。神を一場大切な方として生きることです。そうすればわたしたち一人ひとりには真に聖霊の神殿としていただけるのです。

祈りましょう、主イエスさま、あなたを一番大切な方として生きる恵みをお与えください。日々の一瞬、一瞬を、あなたへの愛の心で行うことができますように!

(Sr. Paulina)

## 四旬節 第四主日

### 「栄光の十字架を仰ぎ、真理を行う」

「モーセが荒れ野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない」とイエスは言われました（ヨハネ 3 章 14 節）。共観福音書で「わたしは苦しみを受け、十字架に付けられて死に、三日目に復活する」と語られた言葉を、ヨハネ福音書でイエスはこのように表現します。

「上げられる」という言葉には、十字架上に上げられることと、死者のうちから復活して天に上げられることが同時に意味されています。苦しみの十字架の姿の中に復活の栄光の姿も先取りして語られているのです。

この、十字架に上げられ復活されたキリストを仰ぎ見る人は（もちろん信仰をもって）、永遠の命を得るというのです（15 節）。それは、モーセが荒れ野で青銅の蛇を上げ、それを見上げた民が蛇に噛まれた毒から救われた出来事（民数記 21 章 4-9 節）の成就だということです。

十字架上に上げられ、復活されたキリストを仰ぎ見ることは、また、「光の方に来る」（21 節）ということだといえます。栄光の十字架、復活の栄光に照らされて生きる、ということでしょう。その人たちは「真理を行う者」となり、「その行いが神に導かれてなされたということが、明らかになる」のです（同）。

この日のミサの第二朗読で、パウロは「わたしたちは善い業を行って歩むのです」と語ります。私たちは皆善い業のために、キリストに似せて神から造られているからだ（エフェソ 2.10）。

十字架上に上げられ復活されたキリストを仰ぎ見ることで、私たちは罪の暗闇から神の光のもとへと移り、善を行い、神から似せて造られた自分自身を真に生かすことになるでしょう。これが「真理を行う」ということなのだと思います。

真理を行わない人は闇の中にとどまっており、それがそのまま裁きになっているとイエスは語ります（19 節）。「人々はその行いが悪いので、光よりも闇の方を好んだ。」「悪を行う者は皆、光を憎み、その行いが明るみに出されるのを恐れて、光の方に来ない」と（19-20 節）。悪を行う人はイエスの光に照らされることを嫌がります。この人たちは、実は蛇に噛まれ、毒に侵されたまま生きている人たちのでしょう。つまり、罪を清め、善の光のもとに連れ戻してくださる十字架の恵みを拒み、罪にとどまったまま生きているのです。その結果、「善い業のために造られた」自分自身が、善い業を行わず、造られた目的に反して生きてしまっているでしょう。

十字架に付けられ、栄光のうちに復活されたイエスは、そのような罪人が立ち帰るまで、両手を広げて待ち続けているのです。「ひとり子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るために」（16 節）。四旬節、この神の和解を受け入れ、上げられた方の光のもとに行き、闇から光への体験を自分のものとしていきましょう。

（今泉健神父）

## 四旬節 第五主日

「はっきり言うておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、

一粒のままである。だが死ねば、多くの実を結ぶ。」(ヨハネ12:20~33)

「わたしたちはイエスにお目にかかりたい」

わたしたちは四旬節の典礼のクライマックスに近づいています。すぐに聖週間に入ります。四旬節最後の週の聖書の中でわたしたちは、律法学者とファリサイ人との絶え間ない困難な論争を主と共に体験します。本日の聖書の中で何人かのギリシャ人がフィリポのところに行ってわたしたちの主に会いたいと頼みます。わたしたちはキリストの弟子としての使命を思いおこします。わたしたちが人と会ったり交わったりとき、わたしたちカトリック信者は主と共にいることを心の中で思い起こさなければなりません。わたしたちの生活が本当にキリストの思いを反映しているならば、その人たちに大きな進歩を遂げさせるでしょう。彼らはわたしたちが持っている「イエスに会いたい」との気持ちを欲するでしょう。親類や、友人または同僚たちからこのような言葉を聞くことは、奉獻者であるキリスト者にとって一番大きな喜びです。

「一粒の麦が地に落ちなければ」

靈魂をキリストに導くことが最大の喜びですから、わたしたちは準備する必要があります。大司教フルトン・シーンはよく不信仰と墮落の生活に悩んでやって来る人の話をしました。それは彼にとって挑戦でした。彼女の救いのために奉げる十字架と犠牲を送ってくださるように主に願ひ求めました。このタイプの祈りは軽々しくしてはならないものです。大司教シーンは間もなく絶え間ない挫折や不都合、迷惑に煩わされました。しかし、彼はそれら全てを忍耐し、彼女の靈魂のために奉げました。のちに彼は、赦免の祝福を彼女に与えました。靈魂の救いのために、わたしたちの愛と心づかいを必要としている人に対して、特に何をしたらよいでしょうか？

「わたしは全ての人を自分のもとへ引き寄せよう」

靈魂の救いはキリストがわたしたちに求めていることですが、わたしたちはひとりではありません。キリストはわたしたち自身よりずっとこのことを切望しています。

「わたしは地上から上げられるとき、すべての人を自分のもとへ引き寄せよう」。キリストは十字架から輝き出る力について話しています。それは外面的な力だけでなく、靈魂の内面で働きます。ときに微妙で控えめで、ときに強力で厳しい絶え間ないキリストの強い勧めは、キリストの愛へ開かれた心に働きかけます。キリストの尽きることのない現存する愛の奉仕者となるように自分を委ねましょう。

祈りましょう、主よ、あなたはすべての人をご自分のもとへ引き寄せることをお望みです。わたしたちがあなたの愛の大使としてお役にたてるように祈り求めます。あなたのために純粋に生きている人生がどれほど充実しているかを他の人に示すことのできるように助けてください。

(Sr. Paulina)

## 受難の主日（枝の主日）

（マルコ15：1-39）

今日のみことばは、ゲッセマネで祭司長や律法学者、長老らが遣わした群衆によってイエスが捕らえられた後、最高法院で死刑にすべきと決議され、ローマ総督にイエスを死刑にして貰うため連れて行った場面です。当時イスラエルはローマ帝国に支配され、人を死刑にする権限は帝国に握られていたからです。

イエスは裁判にかけられますが黙されました。当時の習慣で総督ピラトは、祭り毎に人々が願う一人の囚人を解放していたのですが、人々はイエスでなく、人殺しピラトの釈放を願い、イエスを十字架につけると叫び立て、ついにイエスは十字架につけられることになったのです。

人となられた神の子イエス、そのお方が人殺しより低くされ、十字架につけられる。なんと悲しい出来事でしょう。でもこのことにより人類の罪が贖われ、私たちに救いもたらされる。私たちへの神の愛、計画の偉大さはどれほどのものがあるのでしょうか。

聖書には全てのことが、事細かに書かれている、記されているわけではありません。述べられたこと以外にも、様々なことがあったでしょうね。少し思い巡らしましょう。イエスが十字架につけられたのは、午前九時と語られています。そして二人の強盗が、イエスの左と右に十字架につけられました。強盗と同じ扱いを受けておられるのです。私たちの救いのために。

そして昼の十二時になると、全地は暗くなり、それが三時まで続いた…とあります。手足を釘付けにされて、出血しながら、痛みの激痛を感じながら、人々からののしられながら、時間が少しずつ少しずつ経ってゆく、自分でどうすることもできないままに。

その様な中、イエスは「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」と叫ばれます。でも父なる神は、人となられた愛する子が、亡くなるままにされました。私たちの罪をイエスが贖うために。それほどまでに父なる神、イエスは私たちを愛して下さったのです。そしてその愛は、今なお変わることなく私たちに向けられています。

十字架の偉大な出来事を眺め、思いながら、私たちを限りなく愛して下さる父なる神、イエスの愛を受け止めて、新たな歩みを進めてゆきましょう。

（Fr. 古川利雅）

## 一本の木がある

石原淳子

部屋の窓を開けると、すぐ目の前に一本の山茶花の木があります。

もうずいぶんと年数も経っていて、建物の二階に届きそうな高さがあり、形のよい枝が大きく広がってこんもりと生い茂り、そこに花がたわわに咲きそろう時には、それはそれは見事な薄紅色のまあるい花の山となります。

更に木の傍らには、あたかもこの木のためにあつらえたかのような外灯が立っているので、夜のライトアップは格別となります。

雨の日は、降りしきる雨足にすっぽりと包まれて、ほのかな明かりに浮かぶ姿は、孤独の陰影を帯びて静かです。 幻想的なしんしんとした雪の夜は、葉や花に積り乗ったかき氷のような小さな雪の塊を、重みに耐えかねてずっと地に落としゆくのを、私は時間を忘れて窓辺に立ち尽くして眺めます。

先日山茶花の木の下で、この辺りを清掃している人と立ち話をしました。

小さな押し車に、竹ぼうきや熊手、鋏、袋の類などなど清掃に必要な道具を、配置よくきっちりと整え納めていて、私はそれを見かける度にその機能的な美しさと言いたい快さに惹かれて、つつい見とれる思いでした。

この木は眺めのいい木だとその人は言いました。 花のつきがいい年と全くだめな年があるけど 今年はいい たくさん咲いたね お宅はこの二階なのそりゃあとびきりの特等席だ 外灯もあるしね。 落ちた花もいいねと地面の花びらを、てぎわよく熊手でかき集めるその満ち足りた表情に、数分言葉を交わした私の心も、温かく満たされるのでした。

私は木が好きです。

植物としての樹木も好きですが、人の心の中にある木が好きです。 詩に詠まれる木、物語の頁に語られる木、また絵画に描かれる木。

聖書にも、さまざまな木が味わい深くさまざまに語られます。

主イエズスは、ベツサイダの盲人の目にご自分のつばきをつけ両手を当てて「何か見えるか」と尋ねられます。 盲人は「人が見えます 木のように見えます」と答えます。 私はこの箇所がとりわけ印象深く、場面のすべてのことがありありと近くに感じられます。 そして夢のように遥かな遠い遠い時に、私自身もイエズスにつばきをつけて両手を当てていただき、「何か見えるか」と尋ねられて、「人が見えます 木のように見えます」と答えた記憶があるような気さえしているのです。

とても大切にしている木の絵本を持っています。

谷川俊太郎の「き」というもう半世紀ほど前の絵本で、堀文子の絵、そして諸井誠の曲がつけられています。

一本の木がある わたしのうちの庭に わたしの生まれるずっと前から  
と詩は始まり、1月から12月までの時を刻んで、わたしとこの一本の木との  
ラブレターと言いたい親密な語らいがうたわれます。

木を見ると木よりも高い空が見える・・・ 梢が風に鳴ってる ねえ聞いて  
わたしも新しい歌をおぼえたわ・・・ 木の中に秘密の手紙を隠した 木は  
黙

てくれる 百年たっても・・・ かごいっぱいの実が 地面に散らばっ  
て

その夜おばあちゃまはなくなった わたしの手を握ったまま・・・ わたし  
はゆめをみる 神さまのお顔 こわいお顔 やさしいお顔・・・

素直な率直なラブレターは、人の営みを告げ、生きることを指し示し、い  
のちの深さへと向かっています。 私がこの絵本を好きなのは、きっと対象が  
木だからなのでしょう。

一本の木、木を支える大地がある。 成長する花や実があり、いずこから飛  
び来る鳥たち、その鳴く声音の賑わいを聴く。 空一面の光、降ってくる恵み  
の雨、吹き渡る風、移りゆく季節の肌合い。 家並みの窓の明かり、そこにも  
れ聞くあらゆるもの音、木の下でかわす声と声、ことばとことば、ほほ笑みあ  
う顔と顔、温もりあう心と心がある。 花も実も最後のひと葉もすべてを落  
として、木は裸となって天を仰ぎ手を伸べる。

たとえ一日のわずかなひとときであっても、心ひらき耳を澄ませ注意深くあ  
るとき、これらすべては素晴らしい贈りもののように感じられ、神さまのこと  
ば福音であることを、私の魂は知るのです。

家人が寝静まり、私は今夜も窓辺に立って山茶花の木を眺めます。

今はもう花の盛りは済んで、外灯の光の中の木は少し寂しそうな姿ですが、  
却って味わい深く感じられるのは、私が老人だからでしょうか。

(詩 146)

主をほめたたえよ わが魂よ主をほめたたえよ  
わたしは生けるかぎり主をほめたたえ  
ながらえる間は、わが神をほめうたおう

(上野毛教会 信徒)

# いのちの言葉 3月

主よ、あなたの道をわたしに示し  
あなたに従う道を教えてください。

(詩編 25・4)

今月の詩編の作者であるダビデ王は、預言者でもありました。敵はすぐそこに迫っており、彼は、苦難と欠乏のなかで身の危険を感じていました。なす術もない自分の無力さに、ダビデは、天を仰ぎ、自分を救ってくださるよう神に願います。

私たちの人生においても、重大な選択を迫られることがあるでしょう。多くの可能性を前に、その中のどれを選べばよいか迷うこともあれば、逆に、道がまったく見えないこともあるでしょう。そのような時、ごく自然に、信頼できる誰かに相談し、助けを求めたりするのではないのでしょうか。

私たちキリスト者は、信仰によって神様との深い交わりに招かれました。神様は、一人ひとりの心の奥にある思いをよく知っておられ、さらに、私たちの善だけをお望みになる、まさに私たちのお父さんです。

私たちは皆、誰も一人ぼっちではなく、同じひとつの家族の一員であることを神様はよくご存知ですが、にもかかわらず、私たちがそれぞれの道を自由に選ぶことを許されます。

しかし同時に、まるで進路を指し示す“レーダー”のように、「私たちが心から神様を愛し、また日々出会う隣人の一人ひとりを受愛するように」と、絶えず導いて下さるお方です。

神様が示される道は、時には難しく、自分の力以上のものを求められるように感じる時もあるでしょう。自分の独りよがりや偏見、うわべだけの謙虚さに気づかされることもあるでしょうし、難しい相手に自分の方から心を開くことや、人々の善のために働くよう求められることもあるでしょう。

その中で、最も私たちに求められるのは、神様が一人ひとりを受愛しておられるという強い確信をもって、隣人を愛することだと思います。この愛さえあれば、私たちが他の人を赦せるようになるでしょう。赦す姿勢が前提にあるなら、人と人との間、異なる民族の間にも、いつか正義と平和がもたらされるようになるでしょう。

主よ、あなたの道をわたしに示し、あなたに従う道を教えてください

自分の人生を、信頼できる相手に委ねたいと望むなら、「私は道である」(ヨハネ 14・6)とおっしゃったイエスのことを思い出しましょう。

1989年、サンティアゴ・デ・コンポステーラ(スペイン)で開かれた「世界青年の日」の集いの中で、キアラ・ルービックは、若者たちにこう語りました。



「イエスは、ご自身を『道』であると言われましたが、それは『私が歩んだようにあなた方も歩みなさい』とおっしゃりたかったのだと思います。彼が歩んだ道の名は『愛』です。

イエスが生きて、世にもたらされたのは、非常に特別で、独特な『愛』でした。それは、神ご自身の内に燃える『愛』そのものだったからです。

では、その愛はいったい何のためですか？もちろん第一に、私たちが神様を愛するためです。そして次に、日々出会う一人ひとりの隣人を愛するためです。

家や大学、職場や教会にいる時、あるいはスポーツをする時、休暇を過ごす時、通りを歩いている時にも、人々の中にイエスを見ながら、誰も除外せず自分のように他の人を愛し、自分の方から先に愛する、このような機会は実にたくさん私たちに与えられています。

一人ひとりを愛しながら、相手の魂により深く入るよう努めてみましょう。相手が抱えている問題、その人の苦しみや喜び、何を今必要としているのか、そのすべてを自分のこととして深く感じられるように。

言いかえるなら、相手の身になって生きることでしょう。それはちょうど、神でおられたイエスが、愛ゆえに私たちと同じ人間になられたことに似ています。

誰でも、自分を理解してくれ、重荷を共に担い、苦しみや喜びを分かち合える友が傍にいてくれると知るなら、身も心も軽くなるでしょう。

皆さん、『相手の身になること、他の人の身になって生きる』ことです。人生でこれにまさる最高の生き方、偉大なことは他にはないからです」と。

レティツィア・マグリ

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

★いのちの言葉の集い

関東 週日に、調布、鷺沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼で集いがあります。

中部 3月11日(日) 14:00～ 瀬戸市みずの坂

サポートハウスゆうや

長崎 3月25日(日) 11:00～ カトリック浦上教会 要理教室

★一日 マリアポリ(藤沢)

3月11日(日) 11:00～16:00

カトリック藤沢教会センターホール

★キアルービック帰天10周年記念ミサ

とき: 3月17日(土) 15時～ 場所: 四谷 イグナチオ教会主聖堂

連絡先: フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: [tokyofocfem@gmail.com](mailto:tokyofocfem@gmail.com)

ホームページ: [conil157ch1.wix.com/focolare-jp](http://conil157ch1.wix.com/focolare-jp)

## 糸巻き棒からペンへ(29)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え



エドゥアルド・サンス OCD

さまざまな章の見出しに「重要な勧告をする」とか「とても良い教えを含んでいる」といった聖女のコメントを見出すこともまれではありません。『自叙伝』の最後の章には次のような見出しがついています。「聖主がくださった大きな恵みの話の続き。これらのあるものからたくさんの良い教えが引き出されうること。これが、すでに申し上げたように、従順のためということの次に来る、筆者の主な意向であること」。ここにはっきりと、執筆の主な意向は、聖女が持っている「たくさんの良い」教えを皆に伝えることであるとされています。

自筆原稿からコピーされた無数の写本の忠実さに不信を抱いていた聖女は、『完徳の道』を出版するために大変な努力したことが、よく知られています。彼女はこの作品（や他の作品）が読者にとって大きな助けになることを意識していました。しかしそれらを直接的に言う（自賛する）ことはしませんでした。『靈魂の城』の序言で、すでに書いた事柄（訳注：『自叙伝』のこと）を、つまり、それらは今や失われてしまったが、すでにそれらを読み、多くの人々に受け入れられた事柄を、再び書こうとしていると述べるような仕方で、時々、他の人々の言葉を取り上げています。（彼女は直接的に、それらは異端審問所の手にあるとか、教えは良いものであるから、没収するのは不適切であったとか言うことはできませんでした。が、そのことをほのめかしています。）「とてもよく述べられていると言われたいくつかの事柄において、このことがうまくいけば幸いです」。

多くの研究者が、テレジアは自分のイニシアチブではなく「従順によって」書いたのだと主張し続けています。しかし、現実とはまったく異なります。すなわち彼女は、一人の女性が著述家として活動するために、その時代に当然とされていた途方もない困難を回避しなければならなかったのです。それゆえ、私たちが彼女を理解しようとするならば、決して忘れてはならない、服従というレトリックを発展させたのです。

テレジアは、学者たちの認可、すなわち自分の著作が正当か異端かを決定する権威を持っている男たちの認可を必要としていることを知っていました。認可か却下かに、彼女の著作を他の人々に読んでもらうことができるか否かがすべてかかっていたのです。

（続く）

## 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>  
の記事を紹介します。

<< **Communications** (時事通信) >>

2018年2月5日

### エウロヒオ・パッチョ神父、帰天

エウロヒオ・パッチョ・ポルボリーノス神父（カルメル山の聖母のエウロヒオ）は、2月1日の夜、ブルゴスで帰天されました。

彼は、1926年7月27日にアリバ・デ・カラヴェラス（レオン州）で生まれ、1942年8月15日に誓願を宣立しました。1950年4月23日に司祭に叙階されました。

修道会と教会に知的な労働をもって奉仕し、ローマやブルゴスや他の多くの場所で倦むことなく教授活動に従事した私たちの兄弟の生涯に対し、神に感謝を捧げましょう。彼の努力は、絶えず謙遜で気取らないあたたかなふるまいと共にありました。

卓越した人々、たとえばフランシスコ・パラウ神父や、とりわけ十字架の聖ヨハネに関する彼の編集の仕事や学説上の仕事は傑出しており、教会と修道会と社会に対してきわめて価値ある証しとなることでしょう。

葬儀は、2月3日の日曜日、ブルゴスのカルメル会の教会で行われました。勝利の教会に彼をゆだねる祈りをお願いいたします。彼が神のみもとで安らかにいこわれんことを。



# カルメル誌 新刊案内



2017年 冬号 No.367

《今年の特集 三位一体のエリザベトの霊性》  
三位一体のエリザベトにおける「人間の召命」(4)

九里彰  
エリザベトの最後の手紙―「愛されるままに」  
須沢かおり

風に吹かれて(14)―結び目を解く  
原 造

「わたしの最初の子供」  
―幼きイエスの聖テレーズとブランジニ 中山眞理

フランス便り(4)見失ったわたしの羊を見つけました  
―“聖なるものになるように あなたも嚼ばれています”  
伊従信子

ファティマ100年の恵み  
ポーリン・フェルナンデス

道元の霊性に学ぶ(4)  
―「自己をならふ」ことと他に開かれること  
田畑邦治

神が慈しまれた道(16) 奥村一朗



特集号「三位一体の聖エリザベトの祈り」  
―現代人へのメッセージ―

エリザベトと共に生きる―永遠の光のもとで  
片山はるひ

続・歴史の中の三位一体のエリザベト  
大瀬高司

三位一体のエリザベトにおける苦しみの神秘  
九里彰

三位一体のエリザベトによる  
「聖書に基づくキリスト中心の生活」  
ポーリン・フェルナンデス

父と子と聖霊の唯一の神を信じる  
―三位一体のエリザベトと共に  
松田浩一

## ご案内

1冊 460円 A5サイズ 50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会  
信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、600円【460円 (+送料 140円)】程度の献金を  
下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬  
+特集号 計 3,000円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

お問い合わせは事務担当 竹田まで TEL(03)5706-8356

10月18日(水) 発売予定

サンパウロ 新刊案内

# 愛と英知の道

— すべての人のための霊性神学 —

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳  
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通曉した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし、ておられる方々にも、本書を勧めています。

## 第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 背 景（1）
- 第2章 背 景（2）
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

## 第二部 対 話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアソシア
- 第9章 神秘主義と根源的なキリスト教
- 第10章 英知と（愛）

## 第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗 夜
- 第14章 〈愛のうちに〉
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英 知
- 第18章 活 動
- 第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アラルランドのバルブアストンに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教を主智大学などで講じるがかわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パンドロ・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性深求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。

• A5判 • 600頁 • 並製 • 定価 3,400円+税 • ISBN978-4-8056-0064-1 C0016



# 最新刊のご案内

## 生きる意味

### ●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

#### ——— 目次 ———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

# カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

**Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum**

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）

# 上野毛霊性センター(東京) (2018年3月～2019年3月)

## 黙想企画 \*\*上野毛聖テレジア修道院(黙想)\*\*

祭日のミサに参加するために

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

2018年 3月29日(木)夕食～4月1日(日)朝食<講話なし、各食事つき>

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2018年12月24日(月)～25日(火)朝食<講話なし、夕食なし>

聖書深読黙想会 大瀬高司神父

2018年 3月24日(土)夕食～25日(日)午後4時

6月 2日(土)夕食～ 3日(日)午後4時

9月29日(土)夕食～30日(日)午後4時

12月 1日(土)夕食～ 2日(日)午後4時

日帰り黙想会 13時30分～16時 福田正範神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように・・・。

2018年 3月 8日(木) 3月23日(金) 4月26日(木) 5月11日(金)

5月24日(木) 6月28日(木) 7月 6日(金) 7月26日(木)

10月26日(金) 11月8日(木) 11月30日(金) 12月13日(木)

2019年 1月11日(金) 1月24日(木) 2月 7日(木)

2月22日(金) 3月 7日(木) 3月22日(金)

\*各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

\*申し込みは、3か月前より受付致します。

奉獻生活者のための黙想会 福田正範神父

2018年

8月 1日(水)17時～ 8月10日(金)朝

8月16日(木)17時～ 8月25日(土)朝

12月27日(木)17時～ 1月 5日(土)朝



聖週間前の黙想会（過ぎ越しの子羊：キリスト）

2018年

3月19日(月)18時～21日(水)15時 福田正範神父

奉獻生活者ならびに一般信徒のための黙想会

2018年

10月10日(水)17時～10月19日(金)朝 福田正範神父

青年黙想会(男女) 35歳位まで

2018年

4月21日(土)16時～22日(日)16時 カルメル会士

2019年

2月16日(土)16時～17日(日)16時 カルメル会士

召命黙想会(男女) 40歳位まで

2018年

11月23日(金)16時～25日(日)16時 カルメル会士

特別黙想会 S r. 伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ）

2018年

11月16日(金)20時～18日(日)16時

- \* 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、カルメル会霊性センターニュース、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- \* こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
- \* 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

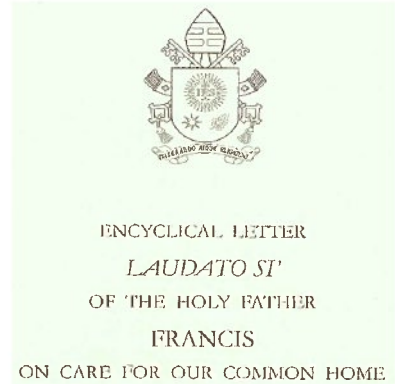
Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ： <http://www.carmel-monastery.jp>

# カルメル会

## 四旬節講話シリーズ

### ともに暮らす家を大切に — 『ラウダート・シ』を生きる—



日時： 2月18日（日）： 吉川 まみ 氏（上智大学講師）  
「エコロジカルな回心と総合的なエコロジー」

2月25日（日）： 大瀬 高司 神父（カルメル会司祭）  
「長く見落とされてきた『身近で些細な存在をいとおしむ』スポット・ライト」

3月 4日（日）： 中川 博道 神父（カルメル会司祭）  
「<sup>つむ</sup>紡がれた世界の中で」

3月11日（日）： フランコ・ソットコルノラ 神父（聖ザベリオ宣教会）  
「アシジのフランシスコと『ラウダート・シ』—諸宗教対話の立場から」

3月18日（日）： 九里 彰 神父（カルメル会司祭）  
「自然とカルメルの霊性—十字架の聖ヨハネを中心に」

上記各日曜日、午後二時半開始、入場無料（講話後、主日ミサ）  
〈カルメル修道会主催〉

場所：カトリック上野毛教会聖堂  
（東急大井町線上野毛駅下車 徒歩7分）  
世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル修道会（TEL:03-3704-2171）

# 聖週間前の黙想会

過ぎ越しの子羊・キリスト

日時：

2018年3月19日（月）18：00～21日（水）15：00

指導： 福田正範神父（カルメル会司祭）

場所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院黙想の家

会費： ¥12,000



お問合せ、お申込み：TEL. 03-5706-7355 FAX03-3704-1789

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

〒158-0093世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

# 聖書深読黙想会

## 【1泊】

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。  
指定されて聖書の言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。  
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交  
わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、  
福音を生きることです。皆様のご参加をお待ちしています。

\*\*\*\*\*

- \* 日時：2018年3月24日（土）18時～25日（日）16時
- \* 場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
- \* 指導：大瀬 高司師（カルメル会司祭）
- \* 会費：¥7500
- \* 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ  
（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）  
聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。
- \* 参考書：「聖書深読法の生い立ち」（奥村一郎著 ¥1,080）  
ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込みは、TEL、FAX、ハガキにてお願い致します。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789

Eメール [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)



# カルメル青年黙想会

私の愛にとどまれ  
私の愛にとどまれ



日時： 4月21日(土) 16時 ~ 22日(日) 16時

場所： カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

対象： 青年男女(16歳~35歳まで)

定員： 20名

費用： 一般 7,000円 学生 2,000円

締切： 4月14日(土)

指導： 福田正範神父・カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

電話： 03(5706)7355

FAX： 03(3704)1789

E-mail： [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

## 宇治カルメル会 2018年度 黙想会案内

【一般のための黙想】・1泊2日 (午後5時～午後4時)

- ~~終了 1月13日(土)～14日(日) 日常生活を次の世代のため 中川博道神父~~  
5月26日(土)～27日(日) 「私の愛にとどまりなさい」(ヨハネ15・9) 九里彰神父  
7月14日(土)～15日(日) 「真の霊性を探す教会」 中川博道神父  
9月8日(土)～9日(日) 「人は新たに生まれなければ、  
神の国を見ることはできない」(ヨハネ3・3) 九里彰神父  
11月23日(金)～25日(日) ※2泊3日 「目覚めていなさい」 中川博道神父

【聖書深読黙想会】(午前10時～午後4時)

- ~~終了 2月3日(土) 中川博道神父~~ 7月7日(土) 九里彰神父  
4月21日(土) 九里彰神父 9月1日(土) 中川博道神父  
5月12日(土) 中川博道神父 11月17日(土) 中川博道神父

【水曜の黙想】(午前10時～午後4時)

- ~~終了 1月24日(水) イエス・キリストと聖パウロ 九里彰神父~~  
~~終了 2月14日(水) 四旬節の課題 中川博道神父~~  
3月14日(水) ~~自分の十字架を背負って Sr.ロサ~~  
→変更 復活に向かって 中川博道神父  
4月11日(水) エマオに現れた復活したイエス Sr.マイラ  
5月23日(水) 「神の母を祝う」 中川博道神父  
6月20日(水) 「まことの食べ物、まことの飲み物」 九里彰神父  
7月25日(水) 「預言者エリアとカルメル」 中川博道神父  
9月26日(水) 私を生まれ変わらせるユウカリスティア Sr.ロサ  
10月24日(水) 「ピンチの時は注意深く」 中川博道神父  
11月21日(水) 「永遠の命」 九里彰神父  
12月19日(水) 私たちの内に宿りたいインマヌエル Sr.ロサ

【四旬節の黙想】(午後5時～午後4時)

- ~~中止 3月3日(土)～4日(日) 過越しを生き抜くために 中川博道神父~~

【ゴールデンウィーク黙想会】(午後5時～午前9時)

- 4月29日(日)～5月4日(金) 「日常の中に隠された宝」 中川博道神父

【聖テレーズの黙想】(午後5時～午後4時)

- 9月29日(土)～30日(日) 中川博道神父

【カルメル青年の集い】(午前10時～午後4時) 中川博道神父

- ~~終了 2月12日(月)~~ 6月9日(土)  
4月14日(土) 11月23日(金)

**【青年の黙想会】** (午後5時～午後4時)

9月15日(土)～16日(日) 中川博道神父

**【一般のためのカルメル霊性】** (午後5時～午後4時)

10月13日(土)～14日(日) イエスの聖テレジア 中川博道神父

12月8日(土)～9日(日) 十字架の聖ヨハネにおける愛の変容 九里彰神父

**【生活の中での霊的同伴】** (金曜午後8時〈夕食なし〉～土曜午後4時)

終了 ~~1月26日～27日~~

7月20日～21日

終了 ~~2月23日～24日~~

9月14日～15日

3月16日～17日

11月2日～3日

5月18日～19日

九里彰神父

**【待降節の黙想】** (午後5時～午後4時)

12月1日(土)～2日(日) 「人となられた神」 九里彰神父

**【奉獻生活者の黙想】** (午後5時～午前9時)

5月28日(月)～6月6日(水) 中川博道神父

8月5日(日)～14日(火) 九里彰神父

8月16日(木)～25日(土) 中川博道神父

11月6日(火)～15日(木) 九里彰神父

12月27日(木)～1月5日(土) 中川博道神父

**祭日のミサに参加するために**

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30(講話なし、各食事つき)

**【聖週間を祈る】** 聖木曜日から復活祭まで、どの曜日からでも参加可能です。

3月29日(木)～4月1日(日)

**【クリスマス】**

12月24日(日)～12月25日(月)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは、電話でも受付しておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間をお願い致します。受付が休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

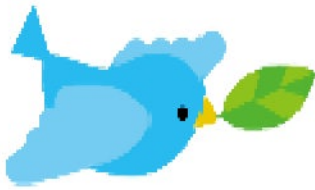
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

# 青年の集い in Uji

……立ち止まって、聴いてみる……



## 『問題性からの脱出』

……聖書の「救い」とは何だろうか？……

2018年4月14日 10:00~16:30

対象：高校生以上 35歳までの男女

参加費：500円

申し込み・連絡先：TEL0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail：[teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39 - 12

スタッフ：Fr.中川博道、Br.原造（カルメル会）

Sr.マイラ（カルメル宣教修道女会）

宇治カルメル会 幼きイエスの聖テレジア修道院（黙想）



# 宇治聖テレジア修道院（黙想）の 「建築基金」への献金のお願ひ

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに54年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。よろしくお願ひいたします。

三井住友銀行  
上前津（カミマエヅ）支店  
普通口座：7205805  
名義：男子跣足カルメル修道会

郵貯銀行  
記号：10040  
口座番号：56845391  
名義：男子跣足カルメル修道会



男子洗足カルメル修道会本部  
〒456-0062 愛知県名古屋市熱田区大宝 4-5-17  
Tel：052-671-1558 Fax：052-681-6445

# カルメル修道会 一日静修 in 名古屋

— カルメル会士とともに過ごす 聖母の土曜日 —

日 時 : 2018年 3月 3日 (土) 13時から17時

テ ー マ : 十字架の道行きの中で — 聖母マリアの苦しみ —

場 所 : カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (カトリック日比野教会)  
名古屋市営地下鉄・名港線 日比野駅下車 徒歩 約8分

プログラム : 13時 ~ 講話・黙想・十字架の道行き  
16時 ~ ミサ・サルヴェレジナ (ミサ中に教会の祈りをいたします)  
17時 解散

★ 受付は12時半からとなります。(尚、聖堂には12時からお入りいただけます。)

★ 途中、赦しの秘跡の時間を設ける予定です。

持 ち 物 : 筆記用具、個人黙想の助けとなる書物・聖書など、ロザリオなどの信心用具。

そ の 他 : 参加にあたって事前のご連絡は不要です。直接会場にお越し下さい。  
尚、当日は、1,000円程度のご寄付を宜しくお願いいたします。

問 い 合 せ : 郵便、FAX、E-mailの何れかで「カルメル会修道会 一日静修係」宛まで。

郵便 456-0062 名古屋市熱田区大宝 4-5-17

FAX 052-681-6445

E-mail [hibino@carmel.or.jp](mailto:hibino@carmel.or.jp)

## 今後のスケジュール

今年以下の日程を予定しています。何れも原則として13時から17時まで。  
特別プログラムの日については、最新のチラシ等でご案内させていただきます。

4月21日(土)	5月12日(土)	6月9日(土)	7月7日(土)
9月15日(土)	10月27日(土)	11月17日(土)	12月8日(土)

「一日静修 in 名古屋」は、カルメル修道会のホームページでもご案内しています。

URL <http://carmel-monastery.jp/> (男子跣足カルメル修道会)

< 主催 > 男子跣足カルメル修道会 日比野(本部)修道院 (大瀬神父・古川神父・ウイリー神父)

## 金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

## 土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と  
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

## 聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ  
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)

# 諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター  
真命山 霊性交流センター  
ノートルダム・ド・ヴィ  
サダナ瞑想  
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院  
慈しみ深き会  
リーゼンフーバー神父キリスト教講座  
レデンプトリスチン鎌倉修道院

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご照会下さい。  
よろしくお願い致します。



## 諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

### 心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎18年度の内観は、月曜(午後2時)から土曜(昼食後)までの5泊6日です。

参加研究費は、関西5万円、関東5万5千円となります。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒662-0003 兵庫県西宮市鷺林寺町3-46 シトー会 西宮の聖母修道院 司祭館  
「心のいほり・内観瞑想センター」藤原神父

FAX 0798-71-5234 Eメール [fujinao1944@nifty.com](mailto:fujinao1944@nifty.com)

<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

### 5泊6日 月曜午後2時より 土曜昼食後まで

#### 2018年予定

- T1 1/22 (月) - 1/27 (土) 兵庫西宮・トラピスチヌ
- K1 3/05 (月) - 3/10 (土) 東京小金井・聖霊会
- T2 4/16 (月) - 4/21 (土) 兵庫西宮・トラピスチヌ
- N1 5/07 (月) - 5/12 (土) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K2 6/11 (月) - 6/16 (土) 東京小金井・聖霊会
- T3 7/02 (月) - 7/07 (土) 兵庫西宮・トラピスチヌ
- K3 9/03 (月) - 9/08 (土) 東京小金井・聖霊会
- T4 9/24 (月) - 9/29 (土) 兵庫西宮・トラピスチヌ
- N2 10/08 (月) - 10/13 (土) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K4 11/05 (月) - 11/10 (土) 東京小金井・聖霊会



## 真命山 2018年 — 祈りの集いのご案内

毎月第2木曜日 (10:00～15:00)

指導者 フランコ神父

\*は聖ザベリオ宣教会ダニエロ・マルケット神父

個人またはグループでの黙想会

研修会も歓迎いたします(要予約)

- 1月11日 五旬節続唱「聖霊、来たり給へ」
- 2月 8日 聖ボナベンツラの祈り
- 3月 8日 聖アンセルモの祈り
- 4月12日 聖フランシスコ・ザビエルの祈り\*
- 5月10日 「サルベ・レジナ」
- 6月14日 聖心の連願
- 7月12日 ロヨラの聖イグナチオの祈り\*
- 8月 休み
- 9月13日 幼いイエズスの聖テレジアの祈り\*
- 10月11日 アッシジの聖フランシスコ作とされている「祈り」
- 11月 8日 シャールズ・デ・フーコーの祈り\*
- 12月13日 「テ・デウム」

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com



いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

# 講話と祈りの集い

～ *Week End Emao* ～



2018年3月17日(土)

午後2時～午後5時30分

担当 片山 はるひ

講話・祈り・質問・分かち合い

場 所：上智大学 2号館1階 カトリックセンター

参加費：無料

テキスト『神と親しく生きるいのりの道  
幼きイエスのマリー・エウジェヌ師とともに』  
(聖母文庫 本体500円+税)を用いて、講話を致します。

※伊従さんの祈りの集いは暫くお休みとなります。



\*\*\*\*\*

お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com



## サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jesuits.or.jp/>

★申込み受付・開始日の8日前まで

コース	日時	指導者	開催場所	申込み
サダナⅡ	3/17(土)17:30- 21(水)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道会 町田黙想の家	来間(くるま)裕美子※ Tel.090-5325-2518 045-577-0740
入門A	4/15(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
那須リピーターの会	4/27(金)17:30- 30(月)14:00	Fr植栗	ベタニア修道女会 聖ヨゼフの家 (栃木県那須郡那須町 大字豊原)	同上
ダイアリー	5/2(水)17:30- 5/6(日)16:00	Fr植栗	上石神井無原罪聖母修道院	同上
入門B	5/13(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
自己を知る *1泊2日 ×2=合計 4日	5/19(土)9:30- 20(日)17:00 5/26(土)9:30- 27(日)17:00	Fr植栗	上石神井無原罪聖母修道院	同上
沖縄 サダナⅠ	6/1(金)9:00- 3(日)16:00	Fr植栗	沖縄・聖クララ修道院 (与那原町) Tel:098-945-8649 Fax:098-945-8720 Sr.名嘉山	

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

### ◆サダナⅠ (入門A.B.C)

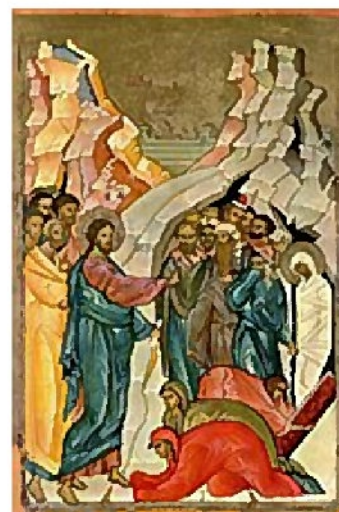
体の営みと想像とを生かして祈りを深め「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

### ◆サダナⅡ

Ⅰをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナⅠを終えた方。

◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。



## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel : 077-579-7580  
Fax : 077-579-3804  
Eメール : karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2018年 5月 6日(日)～5月14日(月)
- ② 8月14日(火)～8月22日(水)
- ③ 10月7日(日)～10月15日(月)
- ④ 12月27日(木)～2019年1月4日(金)

B. 祈りの体験：週末3日間(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2018年 2月 2日(金)～2月4日(日)
- ② 2月23日(金)～2月25日(日)
- ③ 3月16日(金)～3月18日(日)
- ④ 6月22日(金)～6月24日(日)
- ⑤ 7月13日(金)～7月15日(日)
- ⑥ 9月21日(金)～9月23日(日)
- ⑦ 11月16日(金)～11月18日(日)

C. 講話 黙想(奉獻生活者のため)

2018年 5月30日(水)～6月7日(木) 雨宮 慧師(東京教区)

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(フリガナ) 2) 〒住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて  
郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日、9月1日～9月7日を除きます。)

## 祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて  
—観想の祈りへの道—

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室  
12月のみマリア聖堂（ミサあり）

14：00～16：00

### 【2018年予定】

~~1月18日~~ 第13の歌 **終了**  
3月22日 第14及び15の歌（1～14）  
5月24日 第14及び15の歌（15～30）  
7月26日 第16の歌  
9月27日 第17の歌  
11月22日 第18の歌と第19の歌  
12月20日 第20及び21の歌（1～19）

### 【2019年予定】

1月24日 第22の歌  
3月21日 第23の歌と第24の歌

\*参加費無料（献金歓迎）

\*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

九里彰神父（カルメル会司祭）



※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

## ●キリスト教入門講座

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール  
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本  
テーマを取り扱います。

3/ 2 人間の苦悩— 悪とは何のためか

3/ 9 死— その受け入れと克服

3/16 人生の完成— 神の内に生きる

3/17-18 ●黙想会(上石神井)

3/23 聖母マリア— 信じる者の原型

3/30 ○休み

4/ 1 ◆御復活祭のミサ(14時、上智大学内  
クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)

## ●キリスト教理解講座

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール  
キリスト教の基礎知識を持っている方。

信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、  
キリスト教の中心的テーマを探求します。

2年間のコース。

[日常生活]

3/ 6 教会生活とミサ—「キリストの体」の  
神秘

3/20 秘跡の恵み

—たえざる刷新と神のいのちの深まり

## ●神学読書会

第2・第4木曜日：18時～20時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。

『リーゼンフーバー小著作集』から霊性と  
神学に関する文章を読んで、話し合います。

祝日は休み。

・ミサ：上記読書会后20時～20時45分

クルトゥルハイム1F右聖テレジア小聖堂  
どなたでも。

## ●黙想

・「会社帰りの黙想」

毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時

聖イグナチオ教会マリア中聖堂

祝日は休み。

・「黙想会」

3月17日(土)～18日(日)(上石神井)

1泊2日。申込の締切りは、初日の10日前。

## ●坐禅会

・第1、第3月曜日：18時00分～20時00分

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。

2回坐り、間に講話。

(祝日は休み)

## 《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03-3263-4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

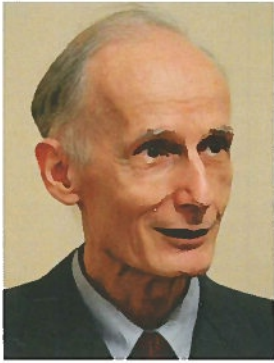
上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通)

-5111(伝言)

Fax 03-3238-5056





# クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	<b>I 超越体験 — 宗教論</b>	定価(本体+税)
	宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
第2巻	<b>II 真理と神秘 — 聖書の黙想</b>	
	日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	<b>III 信仰と幸い — キリスト教の本質</b>	
	主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	<b>IV 思惟の歴史 — 哲学・神学的小論</b>	
	古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拓けて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	<b>V 自己の解明 — 根源への問いと坐禅による実践</b>	
	信仰との関わり方の薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

### ●リーゼンフーバー, クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学の人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

http://www.chisen.co.jp

# 召命黙想会

日時：2018年4月7日(土) 9:30~16:00

開催地：レデンプトリスチン鎌倉修道院

(観想修道院)

指導司祭：中川 博道 神父 (カルメル会)

対象：カトリック女性信徒で奉獻生活を望んでいる  
25歳以上(年齢相談)の独身の方

参加費：1,000円(昼食代)

申込み：住所・氏名・年齢・電話番号・所属教会を  
記入の上、往復葉書でお申込みください。



〒248-0006

神奈川県鎌倉市小町 3-10-6

レデンプトリスチン鎌倉修道院

Tel. 0467-22-3020



中川博道 神父

# 存在の根を探して

## ●イエスとともに

天地創造、カインとアベルの物語など、聖書に記された人間の姿、そして十戒の現代的意義や主の祈り、イエスの生き方をていねいに見ていくことを通して、心の奥底での神との生きた出会いへと読者をいざなう。カルメル会での40年にわたる観想生活から生まれた本書は、カルメルの靈性に触れ、味わう入門書として最適です。

### 主な内容

- ・ 生きることの原点
- ・ 「聴く」という生き方の意味
- ・ 私とは誰？——自らの存在に聴き入る
- ・ 現代という荒れ野を歩む道
- ・ 生きるイエスを捜し続ける教会
- ・ 「心の深い深い、いちばんの奥底」へ



B6判・1700円+税 ISBN978-4-87232-090-9

オリエンス宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

全国のキリスト教書店、Book Web、オリエンス宗教研究所HPもご利用ください。

# 『靈性センターニュース』

## \* 郵送お申込みのご案内 \*

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。  
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。  
例：6月申込の場合は、7月号~12月号（但し8月号は休刊）となり、  
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座（新設）  
へお振り込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184  
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、  
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。  
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」  
Tel:0774-32-7456  
Fax:0774-32-7457  
《変わりました》 [reisei@carmel-monastery.jp](mailto:reisei@carmel-monastery.jp)

### 「靈性センターへの献金」のお願い（上とは別）

「靈性センターニュース」は、7月より、宇治靈性センター事務局で編集、  
印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担し  
ております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00910-6-333184  
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局  
なお通信欄へは「献金」とご記入ください。





## 編集後記

今私がいる宇治の修道院は、高齢者ばかり。この間も、夕食中、以前、東京の碑文谷教会で有名な歌手が結婚式を挙げたという話になった。が、その歌手の名前をだれも思い出せない。「日本人ならだれでも知っている」と某神父。しかし名前は出てこない。

こうなるとクイズ形式となる。「『横須賀ストーリー』を歌った歌手は？」「山口百恵？」「ではなくて、同じぐらいの時に歌っていた歌手？」「森昌子と桜田淳子？」「ではなくて、少し後に出てきて活躍した歌手？」……

四苦八苦したあげく、「松田…聖子…？」「ピンポーン！正解！」。というわけで、名前を思い出すのも一苦勞。エネルギーを使い果たす。

シルバー川柳を二句ご紹介する。

立ち上がり 用事忘れて また坐る

探しもの やっと探して 置き忘れ

(P. 九里)

男子跣足カルメル修道会のホームページ

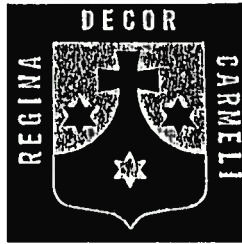
<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会  
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています



『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ  
一冊 100 円程度の献金をお願い致します



~~~~~製本／発送のご協力お願い~~~~~

「霊性センターニュース」の製本/発送を、2017年7月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

4月号の製本/発送日 **3月23日(金) 午前10時頃から**

**宇治修道院信徒会館**

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しく下さい。

霊性センター事務局 ☎0774-32-7456